

平成24年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
1	拡大キッズプログラム&おおずアクティブチャイルドプログラム・プロジェクト事業	NPO法人おおずスポーツクラブ	地域づくりを担う人材の育成を目的とし、スポーツを通じて子どもや健康増進と地域の活性化を図るための事業 ⇒ キッズプログラム指導員料、おおずアクティブチャイルドプログラム指導員料など	1,767,000	1,194,000	昨年度から実施しているキッズプログラムにあわせ、小学校1、2年生を対象とした体力向上プログラムのアクティブチャイルドプログラムを実施する。キッズプログラムは、13園で実施し、約400名の参加者があり、ボールなどを使い、楽しみながら、体をうごかすことへの興味を刺激することができた。新たに取り組んだアクティブチャイルドプログラムは、小学校2校で実施回数総計で65回、約300名に対し、体育事業の支援や昼休みの時間利用や保護者との協力で遊びを通して体を動かす楽しさを体感させ、スポーツをする習慣につなげた。また、外部有識者に評価を依頼し、保護者から、高評価をいただいている。	これまでの事業(キッズプログラム、アクティブチャイルドプログラム、プロジェクト)が大洲市内で育つ子供の教育スタンダードとなるよう、さらには地域住民にとってスポーツを通じて人と人が触れ合い、健康志向はもちろんだこと地域全体が元気で元気ある町になるよう継続して展開していく。26年度までに全ての幼稚園、保育所、小学校で実施したい。	
2	地場産品を活かした地域ブランド開発事業	愛媛県立大洲農業高等学校	伝統工芸品である大洲和紙の歴史を学び古来の製造方法で復元した和紙を活用した新しい形での大洲のPR活動を行うとともに、おうど芋スイーツ等の商品開発を行うことで、地域農業の活性化と青少年の健全育成を図るための事業 ⇒ 手すき和紙製造道具一式、観光マップ印刷費など	1,178,000	1,178,000	大洲和紙で衣服やハガキを作成し、観光施設等に持参し、大洲のPR活動に取り組むことができ、各方面から高い評価を受けた。観光マップ等は、八幡浜港や大街道、松山の旅館等で配布したほか、各種イベントで再三にわたり生徒自ら配布し大洲市のPRをした。食育全国大会に参加した他、伝統野菜である「おうど芋」を中心とした大洲ブランド野菜を使ったベジタブルスイーツの研究・開発を行い、新商品「しょうゆロール」を完成させた。新規開発した「す芋とん」は、O級グルメコンテストで2つ星賞を受賞した。また、既に開発済みであった「大洲芋パン」については、期間限定ではあるが商品化が実現した。	おうど芋等の栽培技術の確立と、地元農家との連携による収益性を追求する。大洲市商工観光課等と連携し、地産地消の推進を行う。実績データを継続的に収集し、消費者意識の調査を行う。	
3	肱南・肱北 おせつたい市事業	大洲スタンプ協同組合	商店街が協働してイベントを行い、おもてなしの心を持った街づくりを進めることで、地域が抱える課題を解消するための事業 ⇒ チラシ作成費、店先に設置する簡易ベンチ購入費など	1,698,000	1,698,000	『肱南・肱北 おせつたい市』とし、両地区でイベントを実施した。肱北地区では、「こほく笑人隊」を中心におせつたいの心を中心にイベントを展開し、店先に簡易ベンチを置き、お年寄りにもやさしい商店街作りを行った。店のイメージアップになり、またバス待ち時間の利用や、ベンチを利用されるお客様と店のコミュニケーション作りにも一役買い、顧客の獲得に成功した。肱南においては、ロールテントの設置により、天候に関係なく催しが行えるようになった。イベント等のほか、ポスターやチラシの折込みで、認知度が上がり、抽選本数が2000本を超え、過去3年間で最高となり、それに伴いスタンプ発行高も上がり、加盟店の売上も増加した。	肱南では、長年続いた「まける市」の歴史を守り、今後も、月例の「まける市」のに加え、年2回の歩行者天国の開催を目指していく。一方、肱北商店街とは、「こほく笑人隊」を中心に商店街の活性化のため、協働体制を整えていく。大洲スタンプ協同組合は、商店街の要として、今後も地道にお客様へのおせつたいの心を持ち、活動して行く。	
4	稲積地区 花菖蒲園事業	稲積花菖蒲園	地域の資源である花菖蒲園を活かし、来客者の安全や利便性確保のための整備を行うとともに、地域内の他団体とも連携をとり、地域全体の取り組みとして観光の振興を図るための事業 ⇒ 園内通路整備費など	2,000,000	1,415,000	アジサイ園の園内通路整備は、整備前は、地山を削っただけのもので梅雨時期は足元がぬかるみ、苦労して観賞されていましたが切込み砕石等を敷き、多くの方々に安全に気持ち良く観賞して頂ける様に整備を行うことができた。4年前までは、知名度も無く地区の方々に楽しんでいただけであったが、人が増え続け、本年度は、菖蒲とアジサイの相乗効果により、昨年度より、4,000人多い10,000人の来園者があった。	今後は、牡丹園の開園と彼岸花(リコリス200種)を育成し法面一面に咲かせ、当初描いていた(稲積癒しの里)の現実化を図る。一人でも多くの人に、癒しと憩いの場所を提供していく。	
5	雲海の里づくり事業	柳沢自治会	来客者の安全や利便性確保するために雲海展望公園の整備を行うことで雲海まつりの更なる発展と新規イベントの開催を目指し、観光の振興を図るための事業 ⇒ 安全確保のための観覧席整備費など	1,266,000	1,266,000	11月18日に第19回目となる雲海まつりを開催した。昨年度までは、狭い場所や草木の生えた斜面からの観覧であったが、今回のコンクリート製の観覧席の整備により、ゆっくりと安心して壮大な眺めと藤縄神楽を堪能していただくことが可能となり、特に高齢者や小さい子供連れの家族に好評であった。開催を重ねるにつれ、知名度も高まり、今年度は昨年より約50名多い、350人の来場者があった。地元の方だけでなく、地区出身者も多数会場を訪れ、郷土に対する愛着を感じさせるとともにコミュニティの増進にも効果があった。	観覧席に藤棚を設置して日陰を作ることにより、雲海の出ない夏場でも、市内が一望できる景色を楽しめるように整備を行っていく。また、次年度は雲海まつりが20回目を迎え、盛大に開催したいと考えているが、展望公園付近の駐車スペースが限られていることから、駐車場整備に向け、地域住民と検討を行う。	
6	『龍馬出発(たびだち)ロード』における「龍馬の四季祭」事業	長浜商店連盟	龍馬記念事業の開催に合わせ年間を通して地域の特色を生かしたイベント「龍馬の四季祭」を開催することで地域の魅力と味覚を発信し、地域の活性化と観光の振興を図るための事業 ⇒ チラシ作製費、PR活動のためのHP整備など	1,898,000	1,766,000	年間を通して、龍馬をテーマとした5つのイベントを実施したことにより、町内外から多くの観光客(約11,500人)の参加があり、長浜の特産品を中心にPRすることができた。また、イベントの準備から開催当日の観光客等との「ふれあい」を通して、商店連盟の会員がひとつになって、街づくりに参加することに大きな意義があり、今後の地域振興の礎となった。今回の事業を通して企画参加に携わった地域の若者たちが、「トリコール」という新たな団体を設立し、9月「夕日に臨むパーティ」と3月「肱川あらし展望台の夜空のパーティ」を開催するなど、地域全体で町興しへの気運が高まっている。	事業の継続企画を、ホームページ上で行っていきたいと考えており、商工会による長浜絶品グルメレポート企画や、写真とエッセイをコラボして情報を発信する企画などを検討中である。「町並み水族館」のような長浜の地域性・特性を活かした新たな取り組みを地域の学校を巻き込みながら、老若男女一体となれる企画づくりを地域一丸となって考えていきたい。	
7	米軍飛行艇遭難60周年記念式典事業	豊茂慰霊碑保存会	生物と触れ合える施設の整備を行うとともに、生物や自然とのきずなを深めるための体験型自然観察プログラムを研究・開発し、観光の振興を図るための事業 ⇒ 施設整備と研究活動のための購入費など	360,000	332,000	今回の記念式典開催にあたり、初めて在日米海軍司令部の出席を受けることができた。また、後日米海軍第7艦隊から慰霊碑保存会長の寺田会長の元にレセプションの招待状が届き、寺田会長夫妻らが横須賀市を訪問した。これらを機に、大洲市から日米親善の友好が深められるよう、今後も引き続き交流の場を設けていきたい。記念誌を作成・発行することで、地元住民をはじめ若い世代へも当時の様子などを伝えるための貴重な資料を得ることができた。また、在日米海軍関係者が慰霊を兼ねて大洲市に観光に訪れていただけるような環境づくりもできた。	豊茂慰霊碑保存会が中心となり、慰霊碑の維持管理を行うとともに、今後とも在日米海軍との交流の場が設けられるように活動を行っていく。	

平成24年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
8	河川美化保全事業	菅田清流の会	肱川の竹林の目的や役割などを学び自然の恵の大切さを感じてもらうことで住民相互の交流促進と地域活性化を図るとともに、伐採により景観や環境改善と治水安全度を向上させ安全・安心で快適な暮らしの実現を図るための事業 ⇒ 必要備品の購入費、講演会講師謝礼など	188,000	188,000	雨で延期となったこともあり、参加者は計画を下回ったが、今回購入した3台のチェーンソーにより、予定していた面積約100㎡の竹林を伐採することができ、窯6個分の竹炭を製作することもできた。講演会(6月10日)では、地元の有識者を招き、竹を植林した目的やその役割について、学生や保護者等に伝えることができた。肱川の竹林を伐採することで、竹林の健全度や治水安全度の向上、そして、不法投棄などの減少により、景観や環境の悪化を防ぐことが期待できる。また、竹林の目的やその役割などを伝えることで、地域資源である肱川や自然の恵みの大切さを学ぶことができる上、世代間のコミュニティ醸成の効果にも期待する。	参加者数が予定人数を下回ったので、事業継続のため、地域住民向けの講演会を開催し、趣旨目的の理解を得るなど周知方法を検討改善を行いたい。	
9	海の生き物ときずなプロジェクト～長高海物語Ⅱ～事業	長浜高等学校水族館運営協議会	生物と触れ合える施設の整備を行うとともに、生物や自然のきずなを深めるための体験型自然観察プログラムを研究・開発し、観光の振興を図るための事業 ⇒ 施設整備と研究活動のための購入費など	1,721,000	1,718,000	屋外にタッチングプール(3台)やテーブルベンチ(3台)等を設置し、来館者の自然体験の場を拡充した結果、来館者数が昨年度の4,000人から6,000人(24年度内見込)に増やすことができた。また、タッチングプール設置後の様子が9月にマスコミ報道された。シーカヤックを用いた自然観察研究では、高校裏の海岸から出発し、約10分で肱川河口域に、約30分で沖浦海岸に、到達することができた。肱川河口域は、波が穏やかで干潮時には海底がよく見え、自然観察に適していることが確認できた。長高水族館については、全国報道3回を含む計22回の報道があり、これまで以上に市のPRを図ることができた。	長高水族館の注目により、長浜の町では「水族館を核としたまちづくり」の気運が高まっている。今後は、商店街に「まちなか水族館」を設置し、町全体が水族館としてアピールしていきたいと考えている。 また、さらにに大型のタッチングプールを整備することで、大型魚類の飼育展示を拡充したいと考えている。 シーカヤックについては、観察方法やどのような生物が観察できるか等について、継続研究したい。	
10	えひめYOSAKOI祭り事業	えひめYOSAKOI祭り振興会	参加者と集客の拡大を目指しPR活動を強化するとともに、祭りの課題を解決し参加型企画など拡充を行うことで、祭りの更なる発展と観光の振興を図るための事業 ⇒ オリジナル総踊り曲の製作費、広告宣伝費など	1,986,000	1,780,000	「総踊り曲」制作に関して、曲を聴いて「えひめYOSAKOI祭り」と「愛媛」「大洲」をイメージできるオリジナル楽曲となった。その完成した楽曲のCDとDVDを今年の参加した全チームに配布、覚えてもらうようお願いした。また、祭りのPRのためCMを制作し、市外の多くの人に情報を発信できた。最後の緑地公園でのフィナーレに関しては、地域住民からの騒音苦情によって、途中から音を出さない演奏を余儀なくされたが、お客様のほとんどがその場に就いてくださり、最後まで手拍子と声援で踊りを盛り上げていただいた。会場にいたすべての人が一体となったすばらしい祭りとなった。観客動員数から見ても、圧倒的に人数は増え、のべ約7,000人の観客で各会場が埋め尽くされた。	今後は総踊り曲を地元へ根付かせ親しんでもらえるように事前の講習会の開催や、この曲を使っての新規チーム募集活動、お披露目を兼ねた積極的なPR活動を行う。その活動によって来年以降の「えひめYOSAKOI祭り」の更なる規模拡大を目指す。	
11	オオズキャンドルナイト#4～和の華やぎ ゆれる灯りと大洲モダン着物コレクション～事業	オオズ☆ロケット団	地域のシンボルである大洲城を活かし、キャンドルを使った演出や参加型イベントとしての更なる拡充を行うことで市民間の交流を図るとともに訪問客に大洲の魅力を市内外にアピールし観光の振興を図るための事業 ⇒ チラシの製作費、会場設営費など	1,736,000	1,736,000	3月9日・10日の計画どおりに開催でき、大洲市内外から7,000名を超えるご来場者があった。前回叶わなかった紙コップのキャンドルアートコンテストを大洲市内の小・中・高校に依頼し、合計34校から4,200個の紙コップアートが集まった。当初計画では、着物コレクションを行う予定であったが、学校法人山本学園からの協力の話があり、松山女学院専門学校で作成した洋服のファッションショーをすることにし、大洲農業高校生に出演をしていただいた。臥龍太鼓・花火等の演出で、来場者の多くの方々に楽しんでいただけた。今回初めて行った提灯行列には2日間で200名の参加者があり、夜の大洲城にも2日で450名の入場者があった。	来場者増加に伴い、会場での対応人数が絶対的に不足しているため、メインスタッフ及びボランティアスタッフの募集などもさらに積極的に行っていく。活動資金確保のためにスポンサー集め・寄付を募る・他のイベントへの物販参加などの努力をする。イベント開催のみに固執するのではなく、他の地域活動へ団としての参加・協力を心がけ、当団体の活動内容への理解を深めてもらう。露出を多くし、認知度の拡大を図る。	
12	ブランド米創造、地域活性化事業	ふるさと再生グループ「みらい」	耕作放棄地の増加や田圃の山林化など地域が抱える問題を解消するとともに高齢者の農業を支援し、地域の活性化と地域ブランド米の生産に取り組むための事業 ⇒ 活動拠点となる倉庫・作業場の建設費、備品の購入費など	2,000,000	2,000,000	平成25年3月に木造平屋の倉庫兼作業場(57.24㎡)が完成した。中古コンバインを購入したが、本年度は、コンバイン操作の技術修得につとめ、来年度以降、地域で活用する計画とした。ブランド米については、施設が整っていないことがあり、知人の料理店で使っていただいた。グループとしては、本年度、荒耕しから田植えまで2件で5反の仕事をお願いした。また、地域の環境美化活動の一環として、桧山の伐採をし、つつじ、さつきを300本植える活動を行った。	当グループでの話し合いの場を多くすることにより、意見の集約と方向性の統一を図る。また、地域のできる事(公園化等)は、地域内の組織にも呼びかける。	
合 計				17,798,000	16,271,000			